

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600262		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム 平泉		
所在地	〒029-4102 西磐井郡平泉町平泉字日照田133-2		
自己評価作成日	令和6年11月15日	評価結果市町村受理日	令和7年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

世界遺産である毛越寺より車で2～3分の所にある。のどかで自然豊かな環境にあり、四季折々の変化を感じることができる。毎年、年度目標を設定し、取り組んでいる。季節ごとの行事(お花見・七夕・夏祭り・芋の子会・ハロウィン・みずき飾り・節分・ひな祭り等々)を行い、季節が味わえるようにしている。また、感染症防止からボランティアは受け入れていないが代わりに職員が手品等を行い、利用者様が「今日も一日がったなあ」と楽しく笑いのある日々が送れるように心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、世界遺産である毛越寺のほど近くにあり、周りに農村風景が広がる地域に立地している。事業所では、毎年度毎に介護目標と具体的な実施計画を作成し、今年度は「利用者がリフレッシュでき、充実した日々を過ごせるよう余暇活動に取り組む」などの4つの目標を掲げて、利用者へ寄り添った支援やコロナ禍の制約の中でも、お花見や七夕、夏祭り等の余暇活動の充実などに職員は注力して取り組んでいる。食事についても、多くの利用者がきざみ食が必要となっていることから、柔らかく食べやすいもので好みのものを提供し、行事食も芋の子汁などの利用者が楽しめるものを提供して喜ばれている。また、感染症対策に注意しながらもお花見やあじさい見物、紅葉見物などでドライブによる外出支援も継続しており、利用者に楽しさを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 平泉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共有スペースの壁に掲げ、常に念頭に置いている。また、年度ごとに介護目標を立て、目標達成出来るよう日々、協力し合っている。	開設当初に作成した「愛・人と人とのつながりのあるグループホームを目指す」という理念を掲げている。この理念をもとに、毎年度の介護目標と実施計画を定めケアの基本としている。今年度は四つの目標を定め、利用者への寄り添いや余暇活動の充実などに取り組んでいる。	理念の意義について、職員がさらなる関心と共感を持つため、今一度見直しの要否も含めた検討、確認の話し合いを行い、職員間で一層の理解と共有を図ることをことを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染防止のため、地域との交流は控えている。今年度、高校生のインターンシップを受け入れ、体験していただいた。	コロナ感染対策のために、現在でも夏祭り等は地域住民の参加を控えて事業所内で行っている。町内会に加入していないが、区長や民生委員には事業所の広報を配布している。このような中でも、今年度は事業所として初めて高校生のインターンシップとして1名を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様の来所時やアセスメントの際等に認知症の症状について、その都度、説明を行い、理解していただけるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面開催とし、利用者様やホームの状況を書面にて報告している。	コロナ感染防止のために、現在も書面開催となっている。運営推進会議は地域包括支援センター職員や、区長、民生委員などをメンバーとして、バランスよい構成となっている。書面開催のため、会議資料を送付して意見等があれば連絡してくれるよう案内しているが、委員からの応答はない状態が続いている。	開催場所を近所の公民館等とするなどの工夫を行い、早い時期の集合会議の再開を検討されるよう期待します。また、書面開催を続ける場合でも、返信用封筒を活用するなど、委員からの意見等を汲み取る工夫が望まれます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の方に運営推進会議の委員となっただき、助言を頂ける体制を取っている。また、地域ケア会議に参加し、情報交換をしている。	町の保健センターが主催する地域ケア会議は、年に2、3回開催されており、事業所からも参加して行政や関係機関との連携を図っている。要介護認定申請などの際には、保健センターや広域行政組合の担当者から指導助言を得ている。なお、生活保護受給の利用者に振興局の担当のケースワーカーが定期的に来訪している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 平泉

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を行っている。また、内部研修も年2回実施している。	身体拘束廃止委員会は3ヵ月に1回開催され、全職員が参加する研修会も年2回実施している。スピーチロックについては、行動制限する言葉が思わず出ることがあり、お互いに注意合っている。玄関の施錠は防犯対策も兼ねて夜間に行っている。家族の了解を得て転倒防止のためのベッドセンサーを3人が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内部研修、委員会を年2回実施している。虐待防止に向けて、共通の意識を持ち、虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の内部研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居申請の際に概要を説明し、契約の際は契約書・重要事項説明書にて説明を行い、理解・納得をしていただけるように努めている。契約内容への疑問があれば随時、問い合わせいただくように合わせてお話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望箱を玄関に設置している。来訪時や電話にて意見や要望を伺い、日々のケアに反映させている。外部評価の「ご家族からのアンケート結果」からお話が出た案件はスタッフ会議で報告し、意見を聞き、改善に繋げている。	利用者から運営に関する意見等はあまり出されることはなく、家族からは通院時の付き添いや利用料の支払いで来訪の際に、意見等を伺うようにしている。家族からも運営に関する意見はあまり出されておらず、運営推進会議も書面開催が続いているため、家族の意見を伺う機会が持てない状態にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議時等に運営についての意見等が出た際には管理者を通じて代表者への意見・提案を行うようにしている。	職員からは、毎月のスタッフ会議や朝の申し送りの際などに、様々な意見や提案が出されている。ボイラーや水回りなどの設備の不具合の場合には、速やかに修繕し対応している。介護資格の取得に関しては、資格取得の際にお祝い金を支給し、職員の意欲向上を後押ししている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 平泉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士、お互いの状況を勘案し、労働時間の調整や環境整備を代表者に提案し、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い、介護力アップに努めている。必要に応じてそれぞれの職員が研修の受講や勉強会に参加出来るよう配慮している。また、資格取得（介護福祉士、介護支援専門員等）の推奨も行っており、合格時には祝い金を用意している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議は感染予防にて書面での開催としている。管理者が町の地域ケア会議等に参加している。また、同法人内4つのグループホームの管理者と代表者にて毎月ホーム長会議を開催し、情報交換や意見等を話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問し、要望や心配事等、話を傾聴し、安心して過ごせるよう、ケアプランにも取り入れている。ホームの生活に慣れるまで不安や困っていることがないか等、頻回に聞き、コミュニケーションを多く取ることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査時に要望や心配事を伺い、ケアプランに反映している。電話や来所時にはホームでの様子を伝え、安心していただけるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に入居が妥当か検討している。入居基準として本人、家族状況を鑑み、現状の生活が困難と判断した場合となる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 平泉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のADLや元の生活環境を勘案し、家事等をお願いし、手伝っていただいている。本人の話を傾聴し、不安なく、安心した生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が通院等の来所時には現在の様子を伝えている。また、毎月、ご家族様へ手紙を出し、1ヶ月の状況報告を行い、安心出来るよう配慮すると共に話しやすい雰囲気作りに心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は行っているが、家族、親類と距離を取っての面会など、出来得る限りの関係継続を心掛けている。	面会の制限を続けているが、家族との面会は玄関先にイスを用意して行っている。また、通院の際には家族が付き添って、ついでに自宅に立ち寄ったり、馴染みの食堂でラーメンなどの好みの食事を楽しむ利用者もいる。理容は、ほぼ全員が4ヵ月ごとの訪問理容を利用し新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や状態変化に応じて席替えをしたり、配置を変更する等、随時工夫している。また、孤立することが無いようにスタッフが声掛けをし、支え合うような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じ、相談や支援を行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話をする際は目線を合わせ、話しやすい雰囲気作りに努め、言葉にできない方も様子や状況から本人の思い、希望や意向を把握出来るようにしている。	言葉での意思疎通が可能な利用者は2、3名で、目線を合わせ話しやすい雰囲気づくりに努めている。買い物に行きたいとか外を歩きたいなどの希望が出されている。言葉で表わせない利用者には、好みのものをいくつか提示して選んでもらうなどして、思いや意向の把握に努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 平泉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時・入居時のアセスメントでは日々の暮らしについてご本人・ご家族様・利用されている介護サービス事業所等から基本情報や生活状況を聞き、同じような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・介護記録・申し送りノートなどで一人ひとりの状況把握に努め、ケア会議で話し合い、職員間で状況を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年度初めには介護目標及び実践計画を立てている。ケアプラン作成時にはご家族様に電話等で要望について確認し、ケア会議ではモニタリングを行い、問題点等について話し合い、ケアプランに取り入れている。また、医療との連携を図り、主治医の意見もケアプランに取り入れている。	介護計画の作成はケアマネが担当し、入居後は6ヵ月後に当所の計画を見直し正式なものとしている。モニタリングもケアマネが担当し、全職員が参加するケア会議で検討のうえ承認されている。介護計画は6ヵ月ごとに見直しを行っており、家族の要望や主治医の意見等も踏まえた計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化や気づき等を介護記録や申し送りノート、支援経過記録に記入している。また、ケア会議にてモニタリングを行い、プラン作成に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況などにおいて、通院対応困難な際に通院介助を実施している。日用品の買物を代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防のため、外部との接点は少なくなっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 平泉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している。通院時 には状態・血圧等、主治医に報告し、医療との連 携を図っている。	利用者の全員が、一関市内や平泉町内の医療 機関を受診しており、大半が入居前からのかかり つけ医を継続している。また、大半の利用者は家 族が付き添って通院している。比較的、近距離に 医療機関があり安心して通院できる状況にあり、 連携も十分に取れている。なお、夜間等の急変 時には救急対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	看護職員は事業所に配置していない。基本的 にはご家族様対応で通院しており、通院時には必 要な記録をご家族様に渡すなど医師や看護師に 伝えていただくように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、又、できるだけ早期に退院できよ うに、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にご家族様や医療機関と情報交換を 行っている。必要に応じて職員が入院中の利用 者様の様子を把握しに病院へ出向き、相談員等 から話を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重症化した際、ご家族様と話し合うと共に医療機 関からケアに対するアドバイス等をいただき、対 応している。ただし、看取りの対象になるような ケースでは対応が難しいことから他の施設等へ の入居を進めている。	重度化した場合の対応については、入居時に本 人や家族に説明し了解を得ている。看取りは協 力医師の確保ができないため、現在は取り組ん でいない。介護度が高くなって、入浴の際に浴槽 を跨ぐことが出来なくなるなど事業所での入浴が 困難な状態等に至った場合には、対応が可能な 特別養護老人ホーム等他の施設への入居等につ いて検討されるよう、本人・家族に説明してい る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救命救急講習を受講していたが感染症 防止のため、現在は内部研修を行っている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 平泉

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難・防災訓練を実施している。訓練時に避難場所や誘導の仕方等について再確認している。火災時は六区公民館を避難場所とし、土砂災害時等には役場の指示に従い、避難するようにしている。三日分の飲料水・食料を備蓄している。	町のハザードマップでは土砂災害の警戒区域とされ、近隣の危険個所では砂防ダムの工事が行われている。高齢者等避難の発令時には、指定された避難先の小学校に避難するため、その小学校の環境を予め確認している。また、火災想定避難訓練は、夜間想定を含め年2回行っている。夜間避難の際には近所の協力者も必要であり、民生委員等への依頼も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際の声掛けや入浴・排泄時等には利用者様一人ひとりのプライバシーを損ねないような声掛けや対応を心掛けている。	利用者へは「さん」付けで声掛けしており、丁寧な言葉遣いを心掛けている。排泄や入浴の介助の際には、特に羞恥心に配慮した対応としている。トイレの誘導時にはさり気ない声掛けとし、失禁の際には周りに知られないよう、素早く対応するよう配慮している。また、入浴時には着替えが周りから見えないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心掛け、利用者様からの訴えに耳を傾け、日常会話の中から聞き出すよう努めると共に選択肢を設ける等、ご本人が自己決定しやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活ペースを大切にし、ご本人が満足し、楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	装飾品・衣類などご本人の好みに合わせ、外出時に更衣し、身支度を行っている。定期的に訪問美容を利用している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 平泉

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時、季節感のあるものや利用者様の希望等をメニューに取り入れている。食後には下膳やテーブル拭き等を手伝っていただいている。	献立は、職員が利用者の好みも参考にしながら6日分を作成している。6名の利用者がきざみ食となっており、メニューは軟らかいものが主になっている。利用者は下膳やテーブル拭きなどを手伝っている。行事食を楽しむことも多く、芋の子汁や恵方巻、正月の刺身などを提供し、誕生日にはちらし寿司なども振舞っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの状態に合わせ、量を調整している。それを踏まえ、咀嚼・飲み込み等の機能低下が見られる方には刻み食で対応し、食事・水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい・歯磨き・義歯の手入れについて声掛け・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時及び希望時にトイレ誘導・声掛けを実施している。排泄チェック表や介護記録を基に個々の排泄パターンを把握し、誘導・声掛けのタイミングに反映させている。	利用者の仕草や様子を観察しながら、個々の排泄パターンも考慮してトイレへの誘導と声掛けを行っている。日中は全員がトイレを利用し、現在は布パンツで自立が1人で他はリハビリパンツの使用となっている。夜間にはオムツ使用が2人とポータブルトイレ使用が1人となっている。なるべく現状維持を継続するよう、適切なケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し、排便の間隔が空いている方には水分を多めに提供している。処方された整腸剤や下剤を服用していただく等、便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回入浴出来るように計画している。また、個人の要望(入浴の順番、お湯の温度等)に応えるよう努めている。	週2回午後入浴を基本としている。1番風呂を希望する利用者もいて、入浴順や温度などできるだけ各利用者の希望に沿って対応している。入浴中は職員と1対1となって会話が弾み、様々な話をする良い機会となっている。また、柚子湯なども楽しんでいる。なお、一般浴槽のため車椅子利用の3人はシャワー浴となっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 平泉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン、スポットクーラーや床暖房等による室温調整を行い、ゆっくり休んでいただけるようにしている。午睡をしない方もおられるので個々の状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が変更になった際、薬効・副作用など全職員が把握出来るよう、お薬説明書や申し送りノートを活用している。体調の変化が見られた場合などは医師やご家族様と連携を図り、服薬内容を考慮していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣向を確認し、道具などを用意して取り組んでいる(塗り絵、音楽鑑賞、カラオケ等)。毎月、行事を計画し、気分転換出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁には行えないが、行事の中にドライブを取り入れたり、天気の良い日には外気浴を楽しんでいただいている。また、状況に応じてご家族様と外出できるよう支援している。	敷地が狭く、車の往来が多い県道に面していることもあって、近所の散歩などは難しい環境にあるものの、天気の良い日にはなるべく外気に触れる機会を設けている。また、春の花見(厳美溪)や初夏のあじさい見物、紅葉狩り等のドライブに出かけて楽しんでいる。通院時の同伴家族との外出も楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、少額であれば所持していただいている。感染症予防のため、一緒に買物にはいけていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話をお取次ぎしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 平泉

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺の景色から季節が感じられるよう非常口付近にソファを設置し、外を眺められるようにしている。玄関周辺の廊下を中心に季節に合わせた装飾を行っている。	食堂兼ホールにはテーブルとソファや大型テレビ等が置かれ、床暖房とエアコン、空気清浄機等によって適温に保たれている。ホール内には小上がりもあり炬燵も置かれている。壁面には、季節が感じられる折り紙による雛飾りなども飾られており、利用者はそれぞれの場所で寛いだ時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士と一緒に過ごせるよう共有スペースの席を工夫している。また、一人で過ごしたい利用者様の場合はホールと居室への移動を自由にしてもらい、ラジオを聞いたり、読書をしたり等、自分の時間を楽しんでいただき、転倒等無いよう見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や布団を持って来ていただき、不安なくゆっくり過ごせるよう支援している。	居室のベッドはレンタルであり、ダンスや衣装ケース、カラーボックス、ラジオ等の馴染みの物や、利用者によっては位牌や家族写真を持ち込んでいる方もいる。室内は床暖房となっているが、エアコンは備えておらず、夏場はホールのエアコンで凌いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物も玄関を除き、段差のないバリアフリーとなっており、トイレ・居室などに目印を付けたり、自立した生活が支援出来るように居室のレイアウトなど随時工夫・変更している。歯ブラシ・コップ等、ご本人が取りやすい所へ置く等、自分で口腔ケア出来るよう支援している。		